

# 私とロータリー

寄稿

私は元々、亡くなった父親がロータリアンだったため、承継するような形でロータリークラブに入会させて頂いた。

入会前は、ロータリアンというと、身近な父親しか知らなかったこともあり、「ロータリークラブは年配者のレジャークラブ」老足りて礼節を知

名古屋和合  
ロータリークラブ

## 佐藤 公俊



るのロータリーかな」で本当に、知らなかったゆがんだともいえるイメージ化させ、GDPに貢献などと、大変に失礼干渉することであるが、まず30歳代までの若い会員が少なく、40代の若い会員が少なくないということ、そして、唱える奉仕の一つである「夜の街に繰り出して入会させて頂いて意図したのが、それま

外だったのが、それま団体であるということ、職業にいろしむこと自体、まだまだ入会して1年にもならない未熟者ゆえに、ロータリーと

### 「奉仕活動」を再認識

あった。

私はそれまで奉仕という、世のため人のため、自らが犠牲に、己にムチ打ち、艱難（かんなん）辛苦に耐えながら取り組むもの、というよつな、

が奉仕につながるという、2次会・3次会と宴を催すことも、地域経済を

考えた、目からうろこで、足りない身であるが、「足りて礼節を知る」ロータリーアンへと成長するべく、諸先輩方から学んで行きたい。